

講義名	都市環境論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	酒井 彰		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		講義コード	42087

主題と概要

我々の多くは、将来にわたって都市に住み続けることになるだろう。しかしながら、都市生活者の多くは、都市環境がいかに維持されているのかを認識せず、さらには都市環境そのものに対しても無関心である。そこに都市環境問題の根本原因があるように思われる。都市生活者の立場から、「都市環境」について論じていく。

まず、都市環境問題の歴史を振り返るとともに開発途上国における都市環境問題を取りあげる。これは、都市環境問題の認知がやや困難となっている現代日本の都市よりも、問題が顕在化しその本質が理解しやすいためである。続いて、都市環境の主要な要素である水循環と水環境を取上げる。さらに、これからの都市環境を創造、維持していくため、まちづくりの潮流について議論し、併せて都市の環境保全、都市景観についても取り上げ、地球環境問題や人口減少といった今日的課題のもとでの都市環境のあり方について議論する。

都市はさまざまな矛盾をはらみつつ、進化していく。しかし、われわれ都市生活者が利便性や効率性を求めるだけの場から、都市生活者が新たな役割を演じる広義の生活の場に転換していくことが求められていくものと考えられる。良好な「都市環境」は住みやすさを実感し、住んでいる都市に愛着と誇りをもつための基本である。

到達目標

自らの生活と都市環境との関係性に気付き、ライフスタイルに反映させるとともに、都市環境に関わるさまざまな課題に対して自らの意見を提案できる能力を身につけることが目標となる。そのためには、都市に生活することが都市環境とどのような関係性を有しているか、自分なりに考え、文章に表現することが求められる。

提出課題

講義内容理解のためのレポート・2回。レポートは採点のうえコメントを付し返却する。これまでの課題は「関心のある都市環境問題」、「水循環との関わり」、「まちづくりに参加して提案してみたい内容」など。第三者的な見方ではなく、都市に生活する当事者としての能動的で独自の提案を求める。

評価の基準

平常点（講義への参加度） 20点
 毎回簡単なクイズを出題。不適切な回答の場合には出席とみなさない。
 レポート 40点
 （コピペに対しては厳しく対処する）
 試験 40点

履修にあたっての注意・助言他

受講生に期待される到達目標を十分認識し学習すること。
 本講義内容と関連性のある「地域防災論」を合わせて受講することを薦める。

教科書

.使用しない.

プリント資料及び参考文献

レジュメ、新聞記事等関連資料は講義時に配布。参考資料は必要に応じて提示。

授業計画

- 1 都市環境とは / 都市環境と生活者との関係性
- 2 都市環境問題(1)：都市にはどのような環境問題があるか / 戦後日本の都市環境問題の変遷
- 3 都市環境問題(2)：高度成長期の都市環境問題 / 現代の都市環境問題の特性
- 4 都市環境問題(3)：開発途上国の都市環境問題
- 5 都市水環境(1)：水の価値、都市水循環と水環境
- 6 都市水環境(2)：水質汚染問題
- 7 都市水環境(3)：水質管理
- 8 都市水環境(4)：水辺計画
- 9 持続可能な都市環境(1)：都市再生の課題・中心市街地の衰退と再生
- 10 持続可能な都市環境(2)：コンパクトシティ(1)
- 11 持続可能な都市環境(3)：コンパクトシティ(2)
- 12 持続可能な都市環境(4)：人口減少・高齢化とまちづくり
- 13 持続可能な都市環境(4)：環境保全型都市
- 14 アメニティと都市景観(1)：都市のアメニティ / 都市景観の意味 / 景観保全の取組み
- 15 アメニティと都市景観(2)：景観法 / まちづくりと都市景観 / 都市と緑 / まとめと重点事項

予習・復習

予習及び復習の時間は、講義内容に関する事前確認や下調べ、講義資料の事後確認に3.5時間程度、レポート作成には4時間を最低限として、より完成度の高いレポートを求める。

備考